

編集後記

2012(平成24)年4月1日。ヤマトグループの創業100周年記念事業は、この日から第一歩を踏み出しました。そのときの社長の言葉は「100周年は1度しかないので、一過性のお祭りで終わるのではなく、レガシーをつくってほしい」でした。

ヤマトグループの創業100周年は2019(令和元)年11月29日。「100周年までまだ7年半もある」と思いながらも、会社の大きな節目の仕事に携わることができる「感謝の気持ち」と新しいことにチャレンジできる「わくわくした気持ち」を持ち、まず手がけたのは「周年事業とは何か」「社史はどのように制作すればよいのか」「アーカイブって何？」などを勉強することでした。

そして、「周年事業は会社の重要な経営戦略だ」という答えを出し、最初に取り組んだのが、周年事業の全体構想を企画立案することでした。そのなかの一つが社史編纂事業です。100年史として制作する社史を「会社の歴史を資料に基づいた経営史として編集する正史」と「歴史を物語として読みやすく編集する記念誌」の2種類とし、昨年11月29日には記念誌『100年のあゆみ』を発刊しました。そして、今回発刊したのが正史『ヤマトグループ100年史』です。

当社がこれまでに発刊した3冊の社史は、40年史が創業者の自叙伝、50年史が通史、70年史が通史と部門史の組み合わせ、とそれぞれ編集方針が異なる社史でした。そして、今回制作した正史は、100年間の歴史を年代順に編集する通史としました。

編集業務に先立ち始めたのは、基礎年表作成と史資料の収集でした。70年史制作後の30年間はまとまった記録がなかったため、「ヤマトニュース」「クロネコだより」、グループ各社の社史や組合史などをもとに基礎年表を作成しました。併せて過去の史資料収集として、社内や倉庫での探索、社員やOB、取扱店の方への史資料提供の呼びかけを行いました。その結果集まった多くの史資料は、貴重なアーカイブとして社史編纂、歴史館設立などの100周年記念事業に活用することができました。ご協力いただいた皆様にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

また、歴代社長、社員、OB、取扱店、お客さまなど約150名の方に取材をさせていただきました。お聞きした話をすべて反映することはできませんでしたが、私たち編集者にとってはとても貴重な体験でした。今後は、会社の重要な記録として後世に残していきます。

正史を制作するなかで最も苦勞したことは、記載内容や校正での指摘事項が正しい史実かどうか、資料と照らし合わせることでした。校正するたびにさまざまな疑問点が生じ、その都度、関連資料の確認、該当する業務担当者へのヒアリングなどを行い、できる限り正しい史実を記載する努力をしましたが、最終的にわからなかったこともありました。また、年表は最後の最後まで赤字を入れる作業が続きましたが、100年間の歴史の原点である貴重なデータとして、これからも活用できる資料となりました。

こうして編集後記を書きながら、足かけ9年に及ぶ100周年記念事業の集大成として『ヤマトグループ100年史』を発刊できたことに大きな達成感を感じるとともに、実は「記載されなかった重要な史実がまだあるかもしれない、いや、あるだろう」ということが気になっています。発刊後に気がついた場合は、次の社史編纂時に反映するという事で編集者に免じてお許しいただければ幸甚です。

結びに、この仕事を担当させていただいたことへの感謝と、文末ではありますが、編集業務を支えてくださった編纂プロジェクト、編纂スタッフのメンバー、原稿を執筆してくださった小島尚烈様、石井晋様、そして共創型プロジェクトとしてともに歩んでくださった大日本印刷株式会社、株式会社DNPコミュニケーションデザイン、株式会社ユークリッドプロジェクト、株式会社プランニングハウスHARAの皆様へ感謝の気持ちをお伝えして筆を置くこととします。ありがとうございました。

2020年11月29日

ヤマトホールディングス株式会社
『ヤマトグループ100年史』

編集担当

白鳥 美紀

石原 佳奈

山下 稔之

真田麻里子

ヤマトグループ100年史



2020年11月29日発行

発行	ヤマトホールディングス株式会社 東京都中央区銀座二丁目16番10号
編集	ヤマトホールディングス株式会社
執筆	小島尚烈 (年史ライター)〈序章～第9章〉 石井 晋 (学習院大学経済学部教授)〈第10章～第12章〉
制作協力	株式会社 DNPコミュニケーションデザイン 株式会社ユークリッドプロジェクト 株式会社プランニングハウスHARA
印刷・製本	大日本印刷株式会社 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

*本誌に掲載された文章・写真等の無断転載・複写を禁じます。
*本誌の転売を禁じます。